

1:25,000 活断層図 濃尾断層帯とその周辺

「美濃」 解説

濃尾断層帯は、両白山地から濃尾平野北方にかけて北西－南東方向にのびる、左横ずれを主体とする活断層帯であり、温見断層、濃尾断層帯主部、揖斐川断層帯、および武儀川断層によって構成される（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2005）。本図葉にはこれらの活断層のうち、武儀川断層、および濃尾断層帯主部を構成する梅原断層が含まれ、他にも乙狩川断層や多数の推定活断層が記載されている。

武儀川断層は、山県市笹賀付近から美濃市大矢田付近（丸山古窯跡西方）にかけて分布する。複数の断層トレースが並走したりステップしたりしながら全体として北西－南東方向にのび、左横ずれが主体である。笹賀においては、高度不連続や谷の系統的な左屈曲が認められ、中位段丘面上には北側隆起を示す低断層崖も確認される。山県市青波においては、段丘堆積物が変位を受けている可能性のある断層露頭が報告されている（吉岡ほか、2001）。同市富永付近から中洞、関市武芸川町谷口、小知野、八幡付近にかけては、尾根・谷の系統的な左屈曲や鞍部列が認められる。中田・今泉編（2002）および鈴木・杉戸編（2010）では推定活断層として認定されていたが、上記のような地形的特徴を根拠として活断層として認定した。

梅原断層は、山県市梅原の小田付近から高富の石畑付近にかけて北西－南東方向にのび、左横ずれを主体としている。同市梅原上洞の南方においては尾根・谷の系統的な左屈曲が認定され、同市高木戸羽～石畑には南側隆起を示す低断層崖が認められる。また、この低断層崖が鳥羽川を横切る付近には活断層露頭が報告されている（村松ほか、2002）。中田・今泉編（2002）および鈴木・杉戸編（2010）でも活断層として図示されている。

梅原断層は 1891 年濃尾地震に伴って活動し、断層トレースに沿って、あるいはその北側を並走する形で地表地震断層が出現した（村松ほか、2002）。地表地震断層が現れた上洞の扇状地面上ではトレンチ掘削調査が実施され、濃尾地震時に動いたと推定される断層が確認されている（栗田ほか、1999）。

乙狩川断層は、関市洞戸高賀付近から美濃市上野付近まで、南北方向～北北西－南南東方向にのびる、左横ずれを主体とする活断層である。洞戸高賀においては尾根・谷の系統的な左屈曲が認定され、美濃市乙狩栢野から上野にかけても尾根・谷の系統的な左屈曲が認められる。両者の間には直線谷が認められ、断層トレースはこの付近を通過する。この断層は、鈴木・杉戸編（2010）において推定活断層として示されていたが、上記のような地形的特徴が認められることから、活断層として認定した。

本図葉に記載されている推定活断層としては、北東域には、河内峠付近から郡上市美並町大原付近に至る断層、瓢ヶ岳北東から釜ヶ滝付近に至る断層、瓢ヶ岳西南西方の断層（東西方向の断層と北西－南東方向の断層）、水晶山付近から美濃市上河和付近に至る断層がある。南東域には、美濃市立花付近から長瀬付近に至る断層群、関市下之保の平成付近から見坂峠付近に至る断層、見坂峠北東方から美濃市吉川町付近に至る断層、関市下之保町付近から殿村付近に至る断層、美濃市松森付近から関市塔ノ洞付近に至る断層、美濃市安毛付近から誕生山南方に至る断層、美濃市大矢田の上切付近から同市横越の上組付近に至る断層、美濃市大矢田の西洞付近から同市横越の下組付近に至る断層が分布している。西域には、関市洞戸尾倉東方の断層、山県市日永の日永西付近から日永東付近に至る断層、同じく日永西付近から出戸付近に至る断層、山県市船越付近から南東へとのびる断層、山県市谷合の五入道付近（西側隣図「谷汲」図葉内）から笹賀付近に至る断層、同じく五入道の北東方の断層が分布する。これらの推定活断層の認定根拠は、屈曲を示す尾根・谷、直線谷、鞍部、鞍部列、高度不連続、直線的な地形境界などである。

これらの推定活断層の中には、中田・今泉編（2002）や鈴木・杉戸編（2010）によって推定活断層として示されていたものもある。また、美濃市松森付近から関市塔ノ洞付近に至る断層に関しては、中田・今泉編（2002）では活断層として認定されていた。しかしいづれも、活断層である可能性があるものの現時点では確定的ではないため、推定活断層として認定することとした。

（法政大学准教授 杉戸信彦）

引用文献

- 栗田泰夫・苅谷愛彦・奥村晃史（1999）：古地震調査にもとづく 1891 年濃尾地震断層系のセグメント区分。地質調査所速報，no.EQ/99/3（平成 10 年度活断層・古地震研究調査概要報告書），115-130。
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：濃尾断層帯の長期評価について。
http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/60_nobi.pdf（2018 年 3 月 12 日閲覧）。
- 鈴木康弘・杉戸信彦編（2010）：「1:25,000 岐阜県活断層図」。岐阜県，138p。
- 中田 高・今泉俊文編（2002）：「活断層詳細デジタルマップ」。東京大学出版会，DVD-ROM2 枚・付図 1 葉・60p。
- 村松郁栄・松田時彦・岡田篤正（2002）：「濃尾地震と根尾谷断層帯－内陸最大地震と断層の諸性質－」。古今書院，340p。
- 吉岡敏和・苅谷愛彦・吾妻 崇・松崎達二・川崎輝雄（2001）：武儀川断層の活動履歴調査。活断層・古地震研究報告。No.1，産業技術総合研究所地質調査総合センター，107-114。